

第二章 天草上島測量

伊能本隊

天草下島の測量を終えた一行は、以降天草上島を二手に分かれて測量することになる。

伊能隊メンバーは、伊能勘解由、下河辺政五郎、梁田栄蔵、上田文助、箱田良助、長蔵、清七、兵助。

サポートは、付廻り代官・渡辺敬助。付廻り庄屋は、大谷小十郎（町山口村庄屋）、大堂作右衛門（中田村庄屋）上田源作（高浜村庄屋）。そして氏名不詳の郡中竿取五名。なお、大堂庄屋が途中で病気のため引取り、替りに中村清右衛門（宮田村庄屋）が任にしているようである。但し、この中村氏も病気で病気で引き取っている。（35日目巡廻日記及び39日目の伊能隊付廻りから坂部隊付廻りへの書簡による）

伊能隊は、下浦から栖本、倉岳、龍ヶ岳、姫戸、松島への南筋。一方の坂部隊は、志柿から有明、松島への北目筋と大矢野島。

まず、伊能隊の測量から見てみよう。

26日目 11月11日（十月十五日）

測地・雨のため測量中止

泊地・下浦村（天草市下浦町）

《測》 朝雨。

両手共7時頃楠浦村出発。

昨日、西天草は測量済となったので、東天草を手分けして測量する。

伊能隊は下河辺、上田、箱田、長蔵。

乗船して、東天草下浦船場へ着く。

雨止まず。陸路を直ちに下浦村に向かい10時頃に着く。

宿・庄屋金子栄吉。

別宿・柳右衛門。

夜は雨また曇。

《巡》 雨天。7時頃から大雨になる。

伊能隊は、下浦の船場へ船で渡ったが大雨のため測量は中止。9時頃下浦村へ着く。

今日より二手に分かれて測量することになる。

坂部様隊は、大島子へ向かい、そこで泊まる予定。

町山口村庄屋、伊能様付き廻りのため出勤。

砥岐組大庄屋、不快（病気）のため出勤できない旨の書状が来る。

伊能様、坂部様宿の大島子へ書状を遣わす。尤も絵図のため、付き廻りよりも坂部様付き廻りの大庄屋、庄屋へ書状を遣わす。

坂部様隊の家来助八、新助の布団が此の方（伊能隊）へ紛れているのではないかとの書状が、庄九郎より来る。その布団を使いの者へ運ばせる。大島子村へ竹四郎より返書を遣わす。

伊能様宿・下浦村役座。

下河辺様宿・柳左衛門。

代官渡辺敬助様宿・孫四郎宅。

付廻り庄屋宿・十郎左衛門。

伊能隊の別宿が《測》では柳右衛門、《巡》では柳左衛門となっている。

下浦村へ着いた時刻は、測量日記が「四ツ頃」、巡廻日記が「辰頃」となっている。

27日目 11月12日（十月十六日）

測地・下浦村（天草市下浦町）

泊地・下浦村（天草市下浦町）

《測》朝曇りまた雨。

6時頃、下河辺、上田、箱田、長蔵出発。

下浦村舟場人家前より始める。洲森、デンサキ、江ノ浦、下浦本村九浦、垣塚口まで測る（6.3 km・さらに宿まで164 m）。

それより下浦下チガ島一周（1.6 km）、上チガ島一周（1.6 km）を測る。ほかに、両島間（153 m。合計9.8 km）。

16時頃ころ帰宿。宿は、前夜同。

此の夜は晴れ曇りで測量を行う。

夜、砥岐組二間戸村庄屋田中久右衛門、宮田村庄屋中村清右衛門、浦村庄屋小松彦右衛門、棚底村庄屋鬼塚元左衛門来る。

《巡》雨天・10時頃より晴れ。

伊能様、代官様休足。

5時頃出発。

上下ち、嶋より測量、船場より柿崎まで測量し、14時頃帰宿。

富岡会所より菓子9品、茅蓑(雨具)10を飛脚で送られてくる。菓子、蓑とも坂部様付きへ下浦まで送る。

昨日伊能様より坂部様へ、飛脚で書状を送ったが、付廻りより受け取り書が届かないので、その旨を申し送る。夜半ころその書状と菓子、蓑の受け取り書が来る。竹四郎笠も送ってくる。

上田源作(宜珍本人)は、小休止の頃から測量に付き添っていたが、伊能様が休みのため、引き取って休息する。

《宜》測量方一手が砥岐組の泊の村まで飛脚を出す。

付添の仕事も大変の様子がよく分かる。

チ、ガ島(《測》)、ち、嶋(《巡》)は、血塚島のことか。また、デンサキは戸ノ崎、垣塚は柿塚、洲森は須森だろうと思われる。その他、字の地名は分からない所が多い。

泊地・湯船原村(天草市栖本町)

《測》朝晴れ曇り。

7時頃下浦村出発。

同所垣塚口より始め、垣塚、石場、金焼、東崎、舟瀬、それより下浦村・馬場村境まで測る(10・4km)。外に小島遠測、周90m程)。

16時ころに湯船原村に着く。

宿・庄屋猪原勘兵衛。

此の夜晴天、天文測量。

《巡》晴天

6時出発。下浦の柿崎より始め、馬場村の弥内田まで済む。15時ころ湯船原村に着く。

大堂作右衛門下浦より休足。湯船原に先に来る。

長尾斎之助(日向延岡の神職)と申す者、伊能様日向の国神廟の書付のことに付き、下浦村より湯船原まで来る。上田氏取次で伊能様へ差し上げる。

伊能様、下河辺様宿・役座。

代官様宿・同隠宅。

付廻り衆宿・幾左衛門。

28日 11月13日(十月十七日)

測地・下浦村(天草市下浦町)

29日 11月14日（十月十八日）

測地・下浦村、馬場村、湯船原村

河内村（天草市栖本町）

泊地・湯船原村（天草市栖本町）

《測》

7時頃出発。下浦村・馬場村境から始め、馬場村シラトウ、鳥越、梅津、白須川幅43m、大川（幅54m。大川中心、馬場村・湯船原村界。4・3km）。

大川を越えて湯印を残し（即、草積峠横切り）。湯印より、湯船原村本陣まで（727m、即横切り内）測る。それより内田村、湯船原村中野、河内村山浦、草積峠まで測る（5・1km）、別手横切りへ合（10・1km）。

15時ころに帰宿。前日同。

この日終日曇天。夜も同じ。

古江村庄屋永田信右衛門来る。

《巡》早朝晴天後曇天になる。

伊能様、代官様休足。

下河辺様草積まで横切りに出発。昼頃に帰宿。

昼過ぎより海辺の測量に出る。昨日残りの舟瀬より始

め、湯船原村下まで済み。14時頃帰宿。
下浦村に都合三泊。

30日 11月15日（十月十九日）

測地・雨のため測量中止

泊地・湯船原村（天草市栖本町）

《測》

前夜より雨。終日降る。暮※に来る。同所逗留・

砥岐組（樋島村）大庄屋藤田左中太、姫浦村庄屋浦本十左衛門来る。

※暮に来るの意味不明。

《巡》

雨天終日降る。

湯船原滞留。

16時頃一時降り止むが夜中にまた降る。

31日 11月16日（十月二十日）

測地・湯船原村、古江村（天草市栖本町）

宮田村（天草市倉岳町）

泊地・宮田村（天草市倉岳町）

《測》前夜より雨。

一時見合わせるが、実施することにして、雨中ながら8時頃湯船原村を出発。

同村海辺（湯）印より始める。船津（人家両側）、古江村エゴ端、洲ノ浜迄測る（3・1km）。

大風雨になったため中止する。

（付箋）湯船原より洲ノ浜迄、3・1km。洲ノ浜より落

人鼻まで5・8km。ノ8・9km。内、湯船原より宮

田村本陣迄6・2km。宮田本陣より落人鼻迄2・7

km。ノ8・9km。

宮田村へ11時頃頃に着く。

宿・中村清右衛門。

着くやいなや大風雨。16時頃止む。

《巡》夜前より雨降り通し北風かつ大雨

余りにも重宿となるので、出立。測量は困難なので、直接宮田村へ行く。尤も陸通りで駕籠にて行く。昼前

頃に宮田村へ到着。

伊能様・下河辺様外残らず宿・役座。

代官様宿・（記載なし）

付廻り庄屋衆宿・庵。

終日雨降りのため、観測はなし。

《宜》明日測量方泊の村へ、飛脚を出す書状を今晚相認。

気温について

《測》にも《巡》にも、気温が書かれていないのが残念である。当時は気温を測る術がなかったのだろうが。

後日だが、35日目の11月20日には、「西風ニ而冷氣強シ」

と気温が低いことを記している。この日は陰暦では、十月

二十四日だが、陽暦では11月20日である。

ただ、風向については、かなり詳しく記されている。風向計の無い時代、よく観察されていると思う。

近代年譜には、11月16日（十月二十日）に、強風で富岡町で被害が出たことが次のように記されている。この巡廻日記を見ると、富岡のみならず、天草島全体が大風雨であったようだ。

「近代年譜」

文化七年十月二十日（11月16日）この夜四ツ半頃

(11時頃)の強風にて、富岡町内の圍置き組々貯蔵
籾の内、御領組、本戸組、栖本組、砥岐組の分が吹き
倒される。よって役所の見分を受け、籾は組々宿主へ
引き渡し、被害がなかった組で空いている蔵へ入れ直
させる。ただし、蔵のある場所が人馬往来頻繁で、農
業の妨げになるので、組宿主たちへ申し付け、急速に
片づけさせられる。

天草測量は、陽暦では10月16日から12月8日迄実施され
た。前半は、一年で一番過ごしやすい季節だが、後半は結
構寒くなる時期である。ただし、気温は年代によっても違
うし、年によっても違う。現代は温暖化でかなり温いが、
この文化年間はどうだったのだろうか。

江戸時代は、小氷期の気候で、現在より1〜2℃気温が
低かったと言われている。1〜2℃は対したことのないよ
うだが、平均気温というと、ずいぶん違うという。天草測
量が終わりは、かなり寒かったのではないかと想像で
きる。

現在のように防寒対策の衣服や装具、あるいは家屋や暖
房器具もない時代。さらに持病持ちの忠敬にとつては、冬
はつらい時期であったようだ。

32日目 11月17日(十月二十一日)

測地・古江村(天草市栖本町)

宮田村、棚底村(天草市倉岳町)

泊地・宮田村(天草市倉岳町)

《測》 早朝晴れ後曇り。

6時頃出発。古江村洲ノ浜より始め、宮田村友、鏡、
境目、船津、大宮田、才津原、落人鼻迄測る(5・8km)。
それより宮田村・棚底村平瀬島半周測(宮田村分1・
2km、合計7・1km)。
13時に帰宿。
宿・前夜同。

《巡》 晴天。

六時頃出発。
古江村境よりおちうと鼻まで。浜須より宮田村境迄。
宮田村平瀬嶋測量。
昼の下刻帰宿。
今晚は宮田村泊まり。
砥岐組大庄屋藤田左仲太出勤。二間戸村、姫浦村、棚
底村庄屋出勤。

33日目 11月18日(十月二十二日)

測地・宮田村、棚底村(天草市倉岳町)
泊地・棚底村(天草市倉岳町)

《測》朝より晴天。

6時頃出発。宮田村落人鼻より始め、棚底村小崎、田原、南原、浦村中浦、笠松、棚底村飛地、亀石鼻迄測る(6・5km、止宿打ち上げ98m)。外に平瀬島半周測(棚底村分1・6km、合計8・2km)。13時棚底村へ着く。宿・庄屋鬼塚元左衛門。宵曇る。20時頃少し晴れたので観測するが、すぐに曇る。

《巡》晴天。

6時出発。

宮田村おちうとの鼻より棚底村まで残らず測る。平瀬島より浦村の分も残らず終わり、目玉の鼻まで測る。棚底村泊まり。伊能様・下河辺様宿・役座。

代官様宿・富蔵宅。

付廻り庄屋宿・秀吉宅。

竿取宿・伊三次宅、

天文測量実施。

34日目 11月19日(十月二十三日)

測地・棚底村、浦村(天草市倉岳町)
大道村(上天草市龍ヶ岳町)
泊地・棚底村(天草市倉岳町)

《測》暁より大雨。

(大雨のため) 測量を見合わせるが、9時頃雨がやみ始めたので出発。棚底村亀石鼻より始める。(この日度々雨降る) 鳴川、(疱瘡人がこの海辺にいるため、海際の山上を測る)、セゴ浦(瀬子浦)に至る(4・0km)。

瀨印を残す。

また瀨印より袋口を過ぎ、逆にセゴ浦鼻織まで測る(619m、合計4・7km)。雨降りに付き、13時前に宿に帰る。前夜同宿。着後雨止む。

《巡》 4時より雨降り、夜明けに晴れる。

西風吹き夜分大雨。

6時測量場へ出発。浦村境の目玉より開始。棚底向かい側鳴川というところに疮瘡人があるためそこは除く。山を通る新道を作り測量する。船は沖より伊能様測量。

測量日記には、「海際の山上を測」とあるが、巡廻日記には、「山通新道作り御測量に成」と記している。

35日目 11月20日（十月二十四日）

測地・棚底村（天草市倉岳町）

大道村（上天草市龍ヶ岳町）

泊地・大道村（上天草市龍ヶ岳町）

《測》 暁より大風雨。

8時頃棚底村出発。

袋口より始める。松ヶ崎（片側測る745m）、それより昨日測り止めた大道村千石浦（瀬）印より始め、赤崎（人家あり）、桂崎まで測る（2・1km）。外に棚底村・大道村横島一周を測る（2・6km）。合計

5・4km）。

13時頃大道村葛崎へ着く。

本陣・年寄銀左衛門。

別宿・百姓栄右衛門。

此の夜晴天、測量する。

《巡》 晴れる。あなせ（北西）の強風。

7時頃出発。横島測量、それより大道村の赤崎の鼻に移り、葛崎まで済む。

宮田村庄屋中村清右衛門、不快（病気）に付き村へ引き取る。

伊能様宿・葛崎 銀左衛門宅。

下河辺様・同 和五郎宅。

代官宿・同 松右衛門宅。

付廻庄屋宿・丸太 和吉宅。

竿取宿・同 紺屋宅。

今晚天文観測あり・西風にて冷氣強し。

この日は、両日記の天気食い違ふ。測量日記は「暁より大風雨」、巡廻日記は「晴ル」となっている。ただし、夜は晴天。つまり、明け方は風が強く雨が降っていたが、その後晴れたようだ。

また、両日記で、脇宿（下河辺宿）の食い違いが見られる。

36日目 11月21日（十月二十五日）

測地・大道村（上天草市龍ヶ岳町）
泊地・大道村（上天草市龍ヶ岳町）

《測》 朝晴天。

6時頃出発。

大道村楠盛島（楠森島）一周を測る（4・9 km）。
同島より瓢箪島へ渡る（239 m、干潮時は磯続）。
瓢箪島一周（711 m）。瓢箪島より荻島^{ダク}へ渡る（238 m）。荻島一周測（2・3 km。合計8・4 km）。
13時帰宿。
宿・前夜同。
此の夜曇天。

《巡》 晴天。

6時頃より下河辺様測量に出発。楠森島へ渡り、13時頃帰宿。
伊能様、代官並びに付廻り庄屋も休足。

この日は巡廻記では伊能、代官、付廻りは休足しているが、測量日記にはこの事の記載なし。

37日目 11月22日（十月二十六日）

測地・大道村、高戸村（上天草市龍ヶ岳町）
泊地・樋島村（上天草市龍ヶ岳町）

《測》 朝曇天。

7時大道村葛崎出発。

同所測所より始め、池ノ浦（人家）、夏網代（人家）、唐網代（人家）、大道本村、高戸村高串（人家）、小屋河内（人家）、高戸本村、瀬戸（人家）、それより亀石まで測る（9・3 km）。
13時頃樋ノ島村へ着く。
宿・大庄屋藤田左仲太（一同一宿）。
此の夜大曇り、また大雨。

《巡》 朝曇天。東風、午後より雨降る。夜分大風雨。

7時頃葛崎出発。本陣下より測量開始。高戸村瀬戸亀石まで測量。

12時頃樋島村着。

伊能様・下河辺様宿・樋島村大庄屋宅。

代官様宿・大庄屋隠宅。

付廻り庄屋、竿取宿・願成寺^{*}。

葛埼より御朱印長持宰領の者がいなかったため、御咎めを受ける。姫浦庄屋御朱印を守護していたところ、急病になり不埒の段を謝り済む。

巡廻日記には、付廻り庄屋及び竿取の宿が「願成寺」となっている。これは観乗寺のことである。というのも、元は願乗寺と名乗っていた（天草寺院・宮社文化史料図解輯）。そのため、乗と成を間違えたのだろう。天草島鏡にも、真宗願乗寺と記されている。

上天草市発行のパンフやネットによると、この寺は「当時の大庄屋藤田家により、1604年（慶長九年）に、建立された浄土真宗西本願寺派寺院」と記されている。だが、慶長九年当時は、寺沢時代で、庄屋は存在したようだが、大庄屋制があつたかどうかは不明。また開基は天草寺院・宮社文化史料図解輯によると、国澄となっている。この国澄と藤田家の関係も不知である。

藤田家が大庄屋になったのは、1661年（寛文元年）であり（近代年譜）、したがって、建立時の藤田家は大庄

屋ではなかった可能性が高い。

ちなみに願成寺は人吉市にあり、人吉城主初代相良長頼によつて、鎌倉時代に創建された相良氏の菩提寺である。寺の裏手には、相良氏歴代の見事な墓がある。

38日目 11月23日（十月二十七日）

測地・樋島村（天草市龍ヶ岳町）
泊地・樋島村（天草市龍ヶ岳町）

《測》朝大曇り大風。

7時頃、樋島村宿前より始める。右山に沿い、平岩まで測る（7・6km）。外に琵琶ノ首片側258m、合計7・8km。
13時帰宿。前夜同。
この日度々雨、夜も雨。

《巡》雨天風強し。

7時頃測量に出発。
伊能様、代官様休息。
下河辺様測量。樋島のうち、南海道通り測量済。
13時頃帰宿。

夜天文観測。

巡廻日記によると、この日も翌日も忠敬は休足している。このように測量日記には記していないが、忠敬氏休足も適当に取っているようだ。

39日目 11月24日 (十月二十八日)

測地・樋島村 (天草市龍ヶ岳町)
泊地・樋島村 (天草市龍ヶ岳町)

《測》朝曇天。

7時宿前より始める。
左山に沿い、昨日測り止めた平岩まで測る(4.5km)。
外に樋島村竹島一周測(1.4km)。合計5.9km)。
13時前帰宿・前夜同宿。
此の夜晴れ曇。観測実施。

《巡》晴天になる。

伊能様、今日まで休み。
代官様は付添に出る。
樋島の測量済。

13時帰宿。

(町山口村より勝五郎道具持参。

大谷氏(町山口村庄屋)、明日村へ引き取りのつもり。
天文測量あり。

また、天文測量も地図測量にとって重要な測量の一環であったが、このところの天候不順で、なかなか測量ができなかったようで、日記には記していないが忠敬のいらだちを感じる。(資料・伊能忠敬の天草測量行程表参照)

40日目 11月25日 (十月二十九日)

測地・高戸村 (上天草市龍ヶ岳町)
泊地・二間戸村 (上天草市姫戸町)

《測》朝曇り晴れ。

7時樋島村出発。
高戸村(梶島)一周を測る(2.9km)。
それより地方亀石埼織より始め、145mにて23日測量終了地点に至る。

(梶島より亀石織へ渡り幅98m)。
それより又始め、高戸村東風泊(人家57軒)、下貫

(人家10軒)、古神代コカフシロ(人家なし)迄測る(3・9km、合計7・1km)。

14時頃二間戸着。

本陣・庄屋田中久右衛門。

下河辺(24日より病気)宿・儀右衛門。

此の夜曇天。観測なし。

《巡》晴天。北風。夜分曇。天文観測なし。

6時頃樋島村出発。

高戸村柵島一周測より始め瀬戸亀石へ移る。それより

東風留り浦下貫より二間戸古神代新田土手まで済み。

15時頃二間戸村へ着く。

伊能様宿・二間戸村役座。

下河辺様宿・武右衛門宅。

代官様宿・豊七宅。

付廻り庄屋宿・民左衛門宅。

肥後八代郡高田手永惣庄屋鹿子木幸平方より聞き合わ

せ、手附万助を寄越す。

測量方内弟子箱田良助殿へ、鹿子木謙之助より書状一

封を万助が持参したので、早速届ける。また返書を同

人へ渡す。

富岡会所へ書状を出す。代官様よりもお役所、大江村、

久玉村へ三封。

久玉村大庄屋より大江組大庄屋、中田村庄屋へ飛脚にて書状を出す。

地名の呼び名はなかなか難しいのも多いが、ここら当たり現龍ヶ岳、姫戸町の地名は、天草でも難読地名と言えるのが多い。

難読地名を挙げると、夏網代、唐網代、神代、東風泊、柵島、辺戸串、二弁当峠等々。ちなみに読み方は、ナトウジロ、カラジロ、コウジロ、コチドマリ、クグシマ、ヘドグシ、ノベットウと言うらしい。この難読地名は、朝鮮か中国由来かもしれない。どなたか解明いただければと思う。

龍ヶ岳

龍ヶ岳町の背後(北)に聳える山が龍ヶ岳。標高420m。昔は寿ガ岳と呼ばれていたという。見る角度によっては、頂上が平らなアメリカの映画に登場した山にも似ていて秀麗だが、一方全く魅力がない山姿も見せる。

現在は、ミュージア天文台やキャンプ場が開設され、もちろん道路もあり、頂上までは身近な山である。

頂上からの展望も素晴らしい。歌人野口雨情は「阿蘇や雲仙霧島までも龍ヶ岳からひとながめ」と詠んでいる。その文学碑も建てられている。

もちろん、阿蘇や霧島まで見えるわけではないが、この龍ヶ岳の魅力を表している名句である。

したがって、もし、伊能忠敬がこの山に登って、測量をしたら、ずいぶん観測の利となったであろうと思われる。

ただし、当時の龍ヶ岳迄への登り道が無かったかもしれない。たとえあつたとしても、うっそうと茂る樹木で頂上からの眺望は効かなかつただろう。また、その眺望が望める環境にあつたとしても、その日は天気があまり良くないよううで、苦勞して登るほどの価値はなかつたであろう。

でも、もし、忠敬がこの山に登り、見事な眺望を得ていたとしたら、きっと測量の事を忘れ、一詩名句を詠んでいたかもしれない。

41日目 11月26日 (十月晦日)

測地・二間戸村・姫浦村 (上天草市姫戸町)
泊地・姫浦村 (上天草市姫戸町)

《測》

6時二間戸村出発。

高戸村古神代カウシロより始める。神代 (人家あり)、西河内、鬼塚、姫浦村鷲ノ巣、九浦、瀬戸口、本釜まで測りここに横切り印を残す (8・6 km)。宿で打ち止 (44

3 m、12月3日測量予定地点)、横切り印を残す。合計9・0 km。

13時頃姫浦村へ着く。

本陣・庄屋浦本十左衛門。

下河辺宿・十右衛門。

此の夜曇天、観測なし。

《巡》

晴天になる。暮れころから少々雨降る。

町山口村庄屋樋島村より引き取り、儀三郎も帰る。

5時二間戸村出立。同村の内昨日の残り、梵天より、

姫浦村庄屋元まで測量。

15時頃姫浦村へ着き宿泊。

下河辺様は、痛みに付き駕籠にて帰る。

伊能様宿・姫浦村庄屋宅。

下河辺様宿・市左衛門宅。

代官様宿・弥兵衛宅。

庄屋衆宿・清蔵宅。

ここでも兩日記で、下河辺宿の名前が違っている。

下河辺他病氣相次ぐ

《巡》に「下河辺様御痛ニ付御引籠被成候」（十月晦日）と記されているように、下河辺氏が病氣になっている。この病名は当時はやっていた痢病のようである。痢病とは、現在でいうところの赤痢ではないかと思われる。

《巡・坂部附》11月28日（十一月二日）では、略したが、本隊から坂部支隊への書簡の中に、次の事が書かれている。

「下河辺様 先月廿九日二間戸御泊江御出かけ方御痛被遊御風邪之様子ニ御座候処 晦日姫浦江御泊方痢病之御様子ニ而今以御全快ニ相成不申御薬用御座候趣 尤医師高戸元陸と申仁付添居外ニ功者之衆此近村江居合不申 伊能様方御薬方御差図被遊御用イ御座候 今日共ハ御快方ニ御座被遊候間 追々御全快被遊と奉存候 右御病中之義ニ付御別宿用意不仕候而ハ難成御座使間 其御勘弁ニ而先村江御取斗置可被下候」

現在でもそうだが、当時は現在以上に旅中での病氣が、

一番の困りものであった。しかも、辺鄙な天草のこと医師もいなくて、下河辺氏も大変な目に遭ったようだ。

この痢病は、どうやら天草で流行していたようで、この《巡》でも、たびたび病氣になった人が多いことが記されている。

十月二十八日の《巡・坂部附》には、浦村で痢病が流行。浦村庄屋の子息が死去し、本人及び三人の子供も患い、村では、28人が死去したということも記されている。

伊能隊長も、隊員の病氣の心配と同時に、測量の遅れが心痛であったことがうかがい知れる。

42日目 11月27日（十一月朔日）

測地・姫浦村（上天草市姫戸町）
泊地・姫浦村（上天草市姫戸町）

《測》朝晴れ曇。

6時姫浦村出発。

姫浦村本釜より始め、永目（人家30軒）、牟田（人家31軒）、樽水、姫浦村と阿村の界まで測る（7.9km）。
15時帰宿。前夜同宿。

《巡》晴天。南風暖か。

5時出発。

姫浦村新田より始め、永目より牟田夫より阿村境まで測量。

15時頃姫浦へ帰宿。

曇りに付き天文観測なし。

43日目 11月28日(十一月二日)

測地・阿村(上天草市松島町)
泊地・阿村(上天草市松島町)

《測》朝大曇り。

6時姫浦村出立。姫浦村・阿村村界の樽水より始める。阿村南風泊、東風隠、垣瀬(家1軒)、中ノ形(人家7軒)、大瀬(人家2軒)、四郎間(人家7軒)、住吉新田(人家12軒)、浦田(10軒)、釜(人家20軒)、ここに止宿を残し小島崎まで測る。

止宿まで8・4km、止宿後残り967m、合計9・4km。

宿・阿村釜 本陣・年寄治左衛門。

下河辺宿・武平治。
此の夜曇り。観測なし。

《巡》晴天

5時頃出発。

阿村境まで船で行く。境目より上り向きに測量。阿村内釜通り、小嶋鼻まで済む。

釜に宿泊。下河辺様は痛みに付き、朝飯ごろ出発乗船。

伊能様宿・阿村釜 伊兵衛宅

下河辺様宿・武平次宅。

代官様宿・次左衛門宅。

付添中宿・新蔵宅。

阿村釜というところに宿泊。

今晚曇に付き、天文観測なし。

両日記の相違・伊能宿が測量日記は治左衛門、巡廻日記は伊兵衛となっている。また、巡廻日記では、代官宿が次左衛門となっている。

44日目 11月29日(十一月三日)

測地・阿村(上天草市松島町)

泊地・阿村（上天草市松島町）

《測》朝大曇り。

6時頃出発。

阿村瀬島一周測（2・4 km、中島へ渡り51 m）、中島一周測（2・8 km、内175 m、魚見崎より前島合津隠へ渡り幅）、水島一周測（970 m、黒島渡り58 m）、それより黒島小半周（292 m）、大ソウ島半周（178 m）、裸島一周測（591 m）。合計7・3 km。

14時頃帰宿・宿前夜同。

此の夜曇り、観測なし。

《巡》晴天。

5時頃出発、瀬島に渡る。

阿村の内瀬島より測量。小休止。それより二手に分かれる。

弟子の箱田良助、上田文助並びに代官様も測量に加わり、中島を測量。

伊能様並びに弟子の松井沢治に、上田源作も加わり、水島、おふそ島、黒島測量。帳面方竹四郎も加わり勤める。

二手とも13時頃宿に帰る。

宿は釜。

晚天文観測なし。

天草松島は、多島海であり名の通り島が多い。そこで猫の手も借りたいということ？、代官や宜珍、更に諸役も加わり、測量をしている。宜珍はともかくお代官様は御役に立ったのだろうか。ちよつと気にかかる。

45日目 11月30日（十一月四日）

測地・阿村、合津村（上天草市松島町）
泊地・合津村（上天草市松島町）

《測》朝曇天。

7時阿村釜出発。

阿村小島崎より始める。鬼塚（人家3軒）、畑ノ浦（人家4軒）、安蔵（人家2軒）、久ブキ（人家4軒）、カリ浜（同2軒）、ニツ久ブキ（人家1軒）、合津村三郎（人家3軒）、柿ノ木（人家3軒）測印迄測る（4・6 km）。

それより同村天神鼻（人家5軒）、ゴソノロ（人家6軒）、四釜（人家2軒）、御所河内（人家1軒）、ク

ミ崎（人家4軒）、湊（人家4軒）、観音平迄仕越し
測（1・8 km）・ほかに止宿打ち上げ967m、合計
7・3 km。

13時頃合津村へ着く。

止宿本陣・岡部弥十郎。

下河辺宿・伝吉。

此の夜雨。

《巡》曇天。暮頃より雨降る。

5時頃釜を出発。

阿村の小嶋鼻残り梵天より始まる。

合津村いな戸鼻迄測量。

合津村へ15時頃着泊まり。

天文観測無し。

（伊能様は）今日坂部貞兵衛様と合津村で出会いにな
る。

坂部様は今泉村へお越し宿・紅葉軒（向陽軒）。

伊能様宿・合津村役座。

下河辺様宿・同庵。

代官様宿・同仁四郎宅。

伊能様付廻り宿・同伝内（測量日記では伝吉）宅。

坂部様付廻り宿・同甚助宅。

薩州より役人が問い合わせに来る。問い合わせ内容は、
屋久島、種子島、硫黄島の測量の有り無しについて。

※向陽軒 曹洞宗。四ヶ寺のひとつ、本村の東向寺の末
寺、大矢野遍照院の末庵として享保八年に創建された。
大正二年本堂完成と共に向陽寺として独立。筆者は体
験ないが、住職のギター説法が人気で、全国から参拝
があるという。

異常な人口増

姫浦村や阿村の測量では、測量日記に他の地域と異なっ
た表記が見られる。それは、地区の人家を記してあること
だ。もちろん、測量隊が人家の数を調べたわけではなく、
村から測量隊に上げた村の概要を記した書付に、書かれて
いたのを写したものである。

では、なぜ、この村だけ書かれているのか。というのは、
先に記したように、廻し状のなかに、家軒数も書くように
指示されているので、他の村も書いていると思うのに、日
記には記入がない。

また、当時の天草の人口は、現在よりも多かったが、辺
地の集落の軒数は現在よりもはるかに少ない。小字名はど

の地か特定できないが、分つているところでは、28日測量の釜（人家20軒）と、記されているが、現在はかなりの集落である。

江戸時代の全国人口は、推定だが、1600年代、つまり幕府創立期は12000〜13000万人であったが、中期には3000万人になっているようだ。これ以降は幕末まで3000万人で推移している。

対して天草の人口は、表の通りである。表から見えることは、天草一揆で減少した人口が、9倍弱に増えていることである。これは、当時の食糧事情等からしても、異常な状態と云わざるを得ない。

また、現在（平成28年）の天草島（上天草市、天草市、苓北町）の総人口は、約12万人だから、その人口の多さが分かる。この人口の推移を表で見ると、その増加の異常さがよく分かる。

しかし、忠敬の測量日記の各集落の人家は、現在と比べたらかなり少ない。ということは、現在より集中化が進んでいたということだろうか。

